

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、10月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、特集「未来のコンピュータ好きを育てる」については、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■子供だから大人が作れないプログラムを作れるという話をぜひいろいろと伺ってみたいと感じました。大人としては固定観念を見直すきっかけに、子供としては思いをかたちにする経験がお互いにとってプラスになるのではないかと。そういった活動が何らかの形で継続されて、かつ、結果を多くの人たちで共有できる仕組みがあると嬉しいです。(匿名希望)

■若い世代に情報処理技術を教えるにあたり、アンプラグドという考え方を知り、大変参考になった。(阪本俊幸)

■次世代への技術の継承、次世代の新しい技術の発展の基盤確立が重要だと思います。(巫 召鴻)

■情報教育が成熟するには、社会そのものが情報を理解する必要があると思います。我が国はまだまだ情報・ソフトウェアの認知度が低く「我が子を情報産業に就かせたい」と考える人も少ないのが現状だと思います。大人が正しく情報・ソフトウェアを理解するために企業、地域、政治ができることは何か、そのあたりを議論できないでしょうか。(阿南佳之)

■自分自身の研究に関連すると同時に職務上も密接に絡んでくる話題だけに、本特集は非常に興味深く読ませていただきました。と同時に、さまざまな問題が絡み合う現状を理解することで、適切な情報科学教育の方向性とは果たして何なのか、読む前よりも悩みが深くなりました。記事中で指摘されている、「情報工学・情報科学全体としての一貫した学問体系」の確立がまずは先決なのかもしれません。(長瀧寛之)

■便利な機能を使いたいだけの利用者にとって、コンピュータはネットワークも含めて簡単には全容を把握しがたい複雑な機械の集まりなのかもしれないと思う。ブラックボックス化は、利用者の二極化やトラブル時の混乱を致命的な事件としてしまいかねないと思うので、コンピュータ好きがどんどん増えて、普通の人も曇りガラス越し程度には理解できる状況になってほしいと思った。(匿名希望)

■テーマは非常に重要で、スローガンとして良いと思います。たとえば情報オリンピックの記事を見ると、いかに「コ

ンピュータ好き」が科学として重要で、社会で必要不可欠な論理の力を鍛えるかが理解できます。「コンピュータ好き」に対して世間で捉えられるオタクやゲームマニアのイメージを払拭するためにも、このような啓蒙は続けるべきだと思います。(徳山 豪)

■日本の情報科学教育がなかなか進んでいないという事実はあまり認識しておらず、今回の特集で初めて知り驚いている次第である。「好き」という感情を持続できるような教育現場での取り組みを特に期待したい。(匿名希望)

■学校での情報教育に関しては、子供を持つ親として、日ごろからもっといい方法があるのではないかと考えていました。専門家の間では効果的な指導案が研究されていることを知り、現場への普及を切に願います。そのために教員の意識・知識・認識を向上させることが望まれます。情報を科学的に理解することにより倫理的問題の理解も進むと思います。(匿名希望)

■情報教育の現状と世の中の動向が分かり、非常に参考になりました。また、初等、中等教育の重要性を再認識させられました。いつの頃からか情報技術が3K職種と見られるようになってしまいましたが、再び夢のある職種になることを期待しています。それには、企業も技術者が夢と誇りを持って働ける環境を作っていくことが重要だと思います。(匿名希望)

■高い関心を持って読ませていただいた。仕組みを理解し、開発や利用でのモラルを学び、自分で何かを作り出す楽しさを経験すれば、おのずと好きになる。学校教育や情報オリンピックの取り組みの成果は、学生達の将来の力になるだろう。義務教育の子供達のもっと身近なところで、こういう取り組みを紹介してはいかがだろうか。(匿名希望)

■さまざまな情報教育の試みを知ることができて良かったと思います。ただ、私を含めて若年層はゲームをするための道具としてコンピュータを見ていることが多く、どのようにして理論や開発の楽しさを伝えるのか難しいところです。また、コンピュータの分野はカタカナ英語や専門用語を用いる場面が多く、もう少し分かりやすく説明できないものかと思います。それらを踏まえた上での情報教育というものを今後期待しています。(匿名希望)

■教員の資質向上のために「情報科教員には情報処理技術者試験などの適切な資格取得を求めるべきである」との意見は、我々大学教育に携わる者に大きな課題を突き付けられた感じがします。現在の「情報科教員の免許取得に要する科目」は科目名が指定されているだけであり、授業の内容についてはシラバス以外に評価する手段がありません。授業がシラバス通りに行われているか否かを確認するとともに、学生が授業を理解している程度をきちんと評価する手段を早急に作り上げる必要があると思います。(角山正博)

■コンピュータを使わない情報科学であるアンプラグドの紹介が大変興味深く、工夫された授業が行われていることに感心した。子供たちの反応も上々のようで、こうした教育を受けることができる子供たちが羨ましい。またビジュアル言語ではビスケットが良くできていて、大人も子供も理解する時間が変わらないというのに納得である。韓国等諸外国に比べて情報教育は遅れているのが現状のようだが、ぜひより充実化する努力が継続されることを期待したい。(匿名希望)

■今後は、官だけではなく民間企業の取り組みも合わせて紹介していただければ幸いです。(佐藤 淳)

その他の記事に関しては、以下のような感想をお寄せいただきました。

■ IETF の記事を読んで思ったのですが、他の学会の活動状況についても、年に 1 回程度載せていただけるとありがたいです。(川上明浩)

■ 本号全体を通して、中学・高校で計算機科学の基礎や、情報技術の原理・仕組みが教えられていないという記述が随所に見られました。しかしこの状況は大学でも同様ではないでしょうか。情報工学科など情報処理を専門に扱う学科でも、本格的には教育されていないのではありませんか。例を挙げれば、命令セットアーキテクチャをどの程度の時間をかけて教えているのでしょうか。また担当教員はその分野の専門家でしょうか。さらに言えば、本質を徹底的に理解しようとする風潮が我が国にはあるのでしょうか。(山本 登)

■ 情報系の学科(学部)において、JABEE 対応プログラムと JABEE 対応ではないプログラムの 2 つが存在し、学生がプログラムを選択する際に、JABEE 対応プログラムを選択しない傾向があります。JABEE 対応プログラムは、カリキュラムがシビアなためであると思われますが、国際的に活躍できる情報技術者を育成するという観点からは、ぜひとも一人でも多くの学生に、JABEE 対応プログラムを選択してほしいと願っています。学生に JABEE 対応プログラムを選択するよう促す取り組みがあるのならば、そうした取り組みをぜひとも学会でも紹介してもよいと感じています。(水野光朗)

■ 『おふいすらん』デジカメプリントの話は面白い記事でした。今後も、楽しい記事を期待しています。(佐藤 淳)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■ ETSI で量子暗号の標準化が開始されたと聞きました。状況について記事をお願いします。(匿名希望)

■ 脳科学関連のトピックでの特集号を期待します。(匿名希望)

【本欄担当 柳本豪一、江田毅晴／書評・ニュース分野】

これらのコメントは Web 版会員の広場「読者からの声」<URL:<http://www.ipsj.or.jp/07editj/dokusha/dokusha.html>>に掲載していますので、そちらもご参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/michishirube/michishirube.html>> で

これからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。

掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いいたします。

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html>>

応募先 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
情報処理学会 会誌編集部
E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax (03) 3518-8375
<https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enquete.html>

ご意見をお寄せ
ください!!



IPJS カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
2010年				
	論文誌「未来志向のソフトウェア工学」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-H.html	1月6日（水）		
	平成21年度長尾真記念特別賞候補者推薦募集 http://www.ipsj.or.jp/03somu/nagao/H21/h21bosshu.html	1月15日（金）		
	論文誌「ゲームプログラミング」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-F.html	1月25日（月）		
	論文誌「組込みシステム工学」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-U.html	2月15日（月）		
	東海支部学生研究発表会助成 http://www.ipsj-tokai.jp/	2月28日（日）		
	論文誌「魅力ある情報通信社会のためのモバイル通信と高度交通システム」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/11-Y.html	3月31日（水）		
	論文誌「『見える化』により拡大するネットワークサービス技術」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/11-Z.html	4月12日（月）		
	論文誌「多様な価値を創出する情報システム」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/11-V.html	5月17日（月）		
1月12日（火）～ 1月14日（木）	第51回プログラミング・シンポジウム http://www.ipsj.or.jp/prosym/			箱根ホテル小涌園
1月13日（水）	東海支部主催講演会「数法則発見の最新技術」 http://www.ipsj-tokai.jp/		無料、 会員以外の方も参加可	中部大学リサーチセンター（愛知県春日井市）
1月14日（木）～ 1月15日（金）	2010年ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム（HPSCS2010） http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/S-HPSCS2010.html	9月25日（金）	1月7日（木）	工学院大学アーバンテックホール
1月15日（金）	高度交通システム（ITS）2010シンポジウム http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/S-ITS2010.html		1月7日（木）	日本科学未来館（臨海副都心）
1月21日（木）～ 1月22日（金）	第170回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/CVIM170.html		当日のみ	京都大学 吉田キャンパス
1月21日（木）～ 1月22日（金）	第74回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/GN73.html	11月19日（木）	当日のみ	福井工業大学 福井キャンパス
1月21日（木）～ 1月22日（金）	ウィンターワークショップ2010・イン・倉敷 http://radish3.cse.oka-pu.ac.jp/ww2010/	12月1日（火）		倉敷市芸文館／ 倉敷アイビースクエア
1月22日（金）	第136回ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/HCI136.html	11月22日（日）	当日のみ	京都産業大学
1月26日（火）	第128回アルゴリズム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/AL128.html	11月24日（火）	当日のみ	九州大学 西新プラザ
1月26日（火）～ 1月27日（水）	第143回システムLSI設計技術研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/SLDM143.html	11月13日（金）	当日のみ	慶應義塾大学 日吉キャンパス
1月26日（火）～ 1月27日（水）	第77回プログラミング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/PRO77.html	11月19日（木）	当日のみ	大阪電気通信大学 寝屋川キャンパス
1月27日（水）～ 1月28日（木）	第113回システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/OS113.html	11月30日（月）	当日のみ	札幌コンベンションセンター
1月28日（木）～ 1月29日（金）	第179回計算機アーキテクチャ・第15回組込みシステム合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/ARC179EMB15.html	11月17日（火）	当日のみ	東芝本社
1月28日（木）～ 1月29日（金）	第52回モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/MBL52.html	11月25日（水）	当日のみ	東京大学 先端科学 技術研究センター
1月28日（木）～ 1月29日（金）	第97回情報学基礎・第195回自然言語処理合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/FI97NL195.html	12月21日（月）	当日のみ	筑波大学 東京キャンパス
1月29日（金）	第74回デジタルドキュメント研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/DD74.html	11月20日（金）	当日のみ	甲南大学
2月1日（月）～ 2月3日（水）	14th Conference on Optical Network Design and Modeling, 2010 (ONDM2010) http://www.ida.ing.tu-bs.de/ondm2009/		9月11日（金）	京都工芸繊維大学
2月6日（土）	第85回人文科学とコンピュータ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/CH85.html	12月7日（月）	当日のみ	琉球大学 （沖縄県那覇市）
2月11日（木）～ 2月12日（金）	第138回グラフィクスとCAD研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/CG138.html	12月11日（金）	12月11日（金） 宿泊先手配のため、 参加申込締切日を 設けております	ホテル安比グランド （岩手県八幡平市安比 高原）
2月15日（月）～ 2月16日（火）	第84回音楽情報科学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/MUS84.html	12月11日（土）	当日のみ	関西学院大学
2月19日（金）	第47回電子化知的財産・社会基盤研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/EIP47.html	12月20日（日）	当日のみ	大阪市立大学文化交流 センター
2月22日（月）～ 2月23日（火）	第124回ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/HPC124.html	12月25日（金）	当日のみ	熱海ニューフジヤホテル
3月1日（月）～ 3月2日（火）	インタラクション2010 http://www.interaction-ipsj.org/index.html			学術総合センター／ 一橋記念講堂（東京）

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
3月1日(月)～ 3月2日(火)	第8回インターネットと運用技術研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/IOT8.html	1月15日(金)		作並温泉一の坊 (宮城県仙台市)
3月4日(木)～ 3月5日(金)	第77回数理モデル化と問題解決研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/MPS77.html	1月初旬	当日のみ	ルネッサ赤沢 (伊豆高原)
3月4日(木)～ 3月5日(金)	第68回オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/AVM68.html	1月15日(金)	当日のみ	沖縄産業振興センター (沖縄県那覇市)
3月4日(木)～ 3月5日(金)	第98回情報学基礎・第75回デジタルドキュメント合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/FI98DD75.html	1月16日(土)	当日のみ	沖縄県青年会館
3月5日(金)～ 3月6日(土)	第129回アルゴリズム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/AL129.html	1月5日(火)	当日のみ	東芝科学館
3月6日(土)～ 3月7日(日)	第103回コンピュータと教育研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/CE103.html	1月15日(金)	当日のみ	筑波大学 (東京都文京区)
3月8日(月)	第23回ゲーム情報学研究発表会 http://sig-gi.c.u-tokyo.ac.jp/sig/23/	1月8日(金)	当日のみ (発表数が多い時は 3/7も予定)	東京大学駒場キャンパス
3月8日(月)～ 3月9日(火)	第31回システム評価研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/EVA31.html	1月12日(火)	当日のみ	機会振興会館(日程会 場が変更になりました)
3月9日(火)～ 3月11日(木)	情報処理学会創立50周年記念(第72回)全国大会 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/72kai/			東京大学本郷キャンパス
3月11日(木)～ 3月12日(金)	情報システム教育コンテスト(ISECON2009) http://www.ne.senshu-u.ac.jp/~matunaga/isecontest/	11月20日(金)		東京大学 (全国大会にて実施)
3月15日(月)～ 3月16日(火)	第78回プログラミング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/PRO78.html	1月15日(金)	当日のみ	電気通信大学
3月18日(木)～ 3月19日(金)	第75回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/sig/gw/		当日のみ	神奈川工科大学
3月18日(木)～ 3月19日(金)	第171回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/CVIM171.html	1月8日(金)	当日のみ	電気通信大学 (東京都調布市)
3月18日(木)～ 3月19日(金)	第167回ソフトウェア工学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/SE167.html	1月15日(金)	当日のみ	国立情報学研究所 (学術総合センター)
4月26日(月)～ 4月28日(水)	ICMU2010 The 5th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking http://www.icmu.org/icmu2010/	9月18日(金)		アメリカ シアトル
7月19日(月)～ 7月23日(金)	SAINT2010 The 10th Annual International Symposium on Applications and the Internet http://www.saintconference.org/	1月31日(日)		韓国 ソウル
9月7日(火)～ 9月9日(木)	FIT2010 第9回情報科学技術フォーラム http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2010/index.html			九州大学伊都キャンパス
2012年				
1月11日(日)～ 1月15日(木)	ICPR2012 第21回パターン認識国際会議 http://www.icpr2012.org/			つくば国際会議場

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

[トピックス]

- 12月2日 「第51回プログラミング・シンポジウム」参加者募集締切延長しました(12月10日まで)
- 12月1日 「組込みシステム工学」特集の論文募集, 「見える化」により拡大するネットワークサービス技術」特集の論文募集, 「多様な価値を創出する情報システム」特集の論文募集
- 11月26日 行政刷新会議事業仕分けについての意見
- 11月24日 平成21年度喜安記念業績賞候補者推薦募集: 12月18日まで締切延長しました



FIT2010 第9回情報科学技術フォーラム

査読付き論文・一般論文 発表募集案内

FIT2010 Web ページ <http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2010/>

査読付き論文受付期間(予定): 2010年3月8日(月)～4月22日(木)

一般論文 受付期間(予定): 2010年4月30日(金)～5月28日(金)

会 期: 2010年9月7日(火)～9日(木)

会 場: 九州大学 伊都キャンパス (福岡県福岡市西区元岡744)

◆論文ページ数: 2～8ページ程度 ◆講演時間: 20分

◆3ページ目以降はエクストラページ料金 (3,000円/ページ) が必要です

情報処理学会 (IPJS) と電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ (ISS) 並びにヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) とは、2002年から合同で毎年秋季に、「情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)」を開催しており、2010年9月には第9回目を九州大学伊都キャンパスで開催します。

本フォーラムは、両学会の大会の流れをくむものですが、従来の大会の形式にとらわれずに、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきております。

皆様の研究成果発表の場として、標記のとおり論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

●論文誌への道! 「FIT 査読付き論文」で優秀論文を論文誌へ推薦する制度

FIT では、情報分野のより一層の活性化を目的として、「FIT 査読付き論文」について優秀な論文を FIT として情報処理学会または電子情報通信学会の論文誌へ推薦する制度がございます。

「FIT 査読付き論文」の申込とあわせて「論文誌への推薦希望」も受け付け致しますので、ご希望の方は、Web からの講演申込みの際に「論文誌への推薦希望」欄にチェックを入れて下さい。論文誌へ推薦されるためには、完成度の高い論文であることが求められます。論文誌への推薦可否結果は、2010年6月末頃に推薦を希望された皆様にお知らせする予定です。本制度を利用し是非チャレンジして下さい。

※論文誌掲載の採否は、それぞれの学会の論文誌編集委員会が決定致します。

●申込主要日程(予定)

※査読付き論文と一般論文では、登録申込/投稿受付開始時期が異なりますので御注意下さい。

■査読付き論文

登録申込/投稿受付開始: 2010年3月8日(月)

登録申込締切/査読用原稿の投稿締切:

2010年4月22日(木)

査読の採否結果通知: 2010年6月21日(月)

論文誌への推薦可否結果通知(推薦希望者のみ):

2010年6月末頃

カメラレディ投稿締切: 2010年7月2日(金)

■一般論文

登録申込/投稿受付開始: 2010年4月30日(金)

登録申込締切: 2010年5月28日(金)

カメラレディ投稿締切: 2010年7月2日(金)

※登録申込と原稿投稿は、上記のFIT2010Webページよりお願い致します。

※登録申込、原稿投稿要領の詳細は、決定次第 FIT2010Web ページでお知らせ致します。

●査読付き論文(4～8 ページ程度)

査読付き論文は、FIT 設立に伴い新たに導入された企画です。

査読者や読者に研究内容が十分に伝わるように、最大 8 ページ程度に制限緩和された論文ページ数を活用して下さい。

また、採録された論文の中から、査読会議において各分野の応募総数の 5%を上限として優秀な論文を推薦、その中から船井ベストペーパー賞 3 件程度、FIT 論文賞 7 件程度を選定し、表彰式 (FIT2010 会期中) にて表彰致します。船井ベストペーパー賞受賞論文には船井情報科学振興財団より賞金 20 万円、FIT 論文賞受賞論文には FIT 推進委員会より賞金 5 万円を贈呈します。皆様、是非ともチャレンジして下さい。

なお、査読付き論文に投稿されて不採録となった場合には、一般論文として扱います (一般論文発表となります)。

※一部の研究分野では査読付き論文の募集を致しません。査読付き論文の募集を行う研究分野については、Web ページを御覧下さい。

●一般論文(2～8 ページ程度)

当該 FIT での発表件数の 1.5%を上限として、2010年12月31日現在で 33 歳未満の講演者 (査読付き論文および一般論文) を対象に優れた発表を選定し、ヤングリサーチャー賞 (賞金 3 万円) として FIT2011 の表彰式で贈呈します。

●イベント企画募集

FIT2010 では、査読付き論文・一般論文発表募集の他にイベント企画提案も広く募集いたします。

情報科学技術に係るテーマで、社会的関心度の高いもの、時事性が高いもの、学術的価値の高いもの等、是非ご提案を頂ければ幸いです。提案期日は 2010年2月26日(金)、詳細は FIT2010Web ページをご覧ください。

●問合せ先

105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内

社団法人 電子情報通信学会 集会事業部 TEL. 03-3433-6691 FAX. 03-3433-6659 e-mail: ieicefit@ieice.org

情報処理学会創立 50 周年記念（第 72 回）全国大会 聴講参加無料!!
公式 Web サイト <http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/72kai/>

情報処理学会創立 50 周年記念（第 72 回）全国大会

ーコンピュータの無い社会を想像出来ますか？ー

聴講参加・講演論文集事前予約申込の御案内

本大会会期：平成 22 年 3 月 9 日（火）～ 11 日（木）

*8 日（月）プレイベント、12 日（金）ポストイベント開催予定

大会会場：東京大学 本郷キャンパス（東京都文京区本郷 7-3-1）

共催：言語処理学会「言語処理学会 第 16 回年次大会」同時開催

同時開催：情報処理学会主催「ソフトウェアジャパン 2010」

情報処理学会創立 50 周年記念全国大会の「大会聴講参加」「講演論文集 CD-ROM・冊子」ならびに「懇親会参加」の事前予約申込受付を開始いたします。今回の全国大会では、当学会の創立 50 周年を記念いたしまして **大会聴講参加費を会員・非会員、一般・学生を問わず全て「無料」とさせていただきます。**

大会聴講参加申込を頂ければ、記念大会で開催致します全てのイベントならびに通常の一般セッション・学生セッション・デモセッションを大会会期中無料でご聴講、ご参加頂けます。

また、当学会との共催で本大会と同時開催いたします「言語処理学会 第 16 回年次大会」、当学会主催で同時開催致します「ソフトウェアジャパン 2010」ならびに本大会の前後に開催を計画しております「プレ・ポストイベント」につきましても無料でご参加頂けます。

記念大会では、当学会創立 50 周年を記念しチューリング賞受賞者の Frances Allen 氏による招待講演をはじめ以下にご致します 4 名の著名な方々をお迎えしての招待講演企画や様々なテーマによるイベントを企画開催予定です。また「今ドキッの IT」を大会参加者の皆様に実感、体感して頂く大規模デモ展示なども開催予定でございます。

各イベントの詳細（プログラム）は、決まり次第記念全国大会公式 Web サイトに掲載してまいりますのでご確認ください。

皆様、是非ともお誘い合わせのうえ情報処理学会創立 50 周年記念全国大会へご参加を頂きますようお願い申し上げます。

記念全国大会へのご参加、講演論文集のご購入をご希望の方は、必ず上記の記念全国大会公式 Web サイトにございます「聴講参加/論文集 事前予約申込」より事前申込みを頂きますようお願い申し上げます（申込受付開始 12 月中旬予定）。

事前予約申込受付締切：平成 22 年 2 月 26 日（ㄨ切 19：00）

招待講演企画：招待講演 4 件を予定しております。

招待講演 (1)	9 日 (火) 14:00-15:15 第 1 イベント会場 [安田講堂] Frances Allen (IBM 名誉フェロー) *チューリング賞受賞者
招待講演 (2)	10 日 (水) 13:00-14:15 第 1 イベント会場 [安田講堂] 濱田 純一 (東京大学 総長)
招待講演 (3)	10 日 (水) 14:25-15:15 第 1 イベント会場 [安田講堂] Realizing the Future Jim Isaak (IEEE-CS 会長)
招待講演 (4)	11 日 (木) 13:00-14:15 第 1 イベント会場 [安田講堂] 「課題先進国」から「課題解決先進国へ」 小宮山 宏 (株) 三菱総合研究所 理事長)

イベント企画：以下のイベントを企画開催予定です（各イベント名は仮称）。

各イベント企画では第一線で活躍されておられる方を講演者等にお招きし、講演・パネル討論等の開催を予定しております。

9 日 (火) 午前	・smart cloud+クラウド連携 ・21 世紀のライフ・ロング・ラーニングへ向けて ・人間環境センシングの可能性と未来 ・企業活動に役立つ数理科学～サービス化に向けて ・私の詩と真実 (情報処理技術遺産認定式) ・ビデオゲーム開発の現場では今何が起きている？ ・フィールド情報学セミナー *イベント共催: 社会情報学会
9 日 (火) 午後	・大会挨拶・表彰式・認証式 ・言語と知識 ―最新言語処理研究の射程― *共同企画: 言語処理学会 ・これからの日本の情報教育・情報処理教育への情報処理学会からの提言 ・新世代ネットワーク ・セキュリティとディペンダビリティ ・未来を切り拓く最先端 VLSI テクノロジー ・情報爆発時代における情報の高信頼化とデータ品質 ・CHANGE! Yes, we can! Past, Present, Future of Women in Information Technology *イベント共催: IEEE Japan Council ・イマジンカップ日本大会 ・フィールド情報学セミナー *イベント共催: 社会情報学会 ・超高精細映像・立体映像

10 日 (水) 午前	・JEITA Green IT 研究会セッション ・ディペンダブルシステムー新しい原理から実現までー ・e-Health 時代の医療情報処理アプローチを考える *イベント共催: 日本医療情報学会 ・学会誌「情報処理」のこれから ・誰が、何を、いつ、どこで、なぜ、どうやって翻訳するか? ・改正著作権法と IT ・プログラミングコンテストにより情報系人材を育てる ・ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラム「サービスサイエンスがITサービスの顧客満足度を向上する」*連携: 日本情報システム・ユーザ協会
10 日 (水) 午後	・情報処理の「夢」(情報処理学会会長セッション) ・CGM の現在と未来: 初音ミク、ニコニコ動画、ピアプロの切り拓いた世界 ・人工知能研究の新展開ー日本発世界へー [イベント共催: 人工知能学会] ・センシング Web とプライバシーマネジメントープライバシーに配慮したセンサ情報の社会的利用ー ・情報システム論文執筆ワークショップー情報システムの論文を書こうー ・理数系人材育成プログラム「ロボットを作ろう・動かそう」 ・プログラミングコンテストにより情報系人材を育てる ・JST CREST セッション ・ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラム「サステナブルな組織のためのプロジェクトマネジメント」*連携: プロジェクトマネジメント学会 ・ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラム「気象庁防災情報XMLを使った実証実験」*連携: XML コンソーシアム
11 日 (木) 午前	・ソフトウェアジャパン 2010 全体セッション「サステナブル社会を実現する IT」 ・パネル討論: 情報処理グランドチャレンジ ・JST さきがけセッション ・人材育成における情報教育ーこれからの大学院教育ー ・次世代ネットワークを変容させるネットワークセキュリティ技術: トラクダブルネットワークの実現へむけて ・「情報処理」を採訪するー学会コンテンツから見えてくるものー ・情報システム教育コンテスト-ISECON2009 インタラクション審査 ・ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラム「ビジネス・エスノグラフィの普及」 ・ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラム「ソフトウェア開発のパラダイム・チェンジ in マインド」*連携: 情報処理推進機構 SEC
11 日 (木) 午後	・ソフトウェアジャパン 2010 全体セッション「サステナブル社会を実現する IT」 ・JST さきがけセッション ・人材育成における情報教育ーこれからの大学院教育ー ・ICT 生活の核の一つか? ライフログ ・グローバルクラウド基盤連携技術フォーラム ・情報システム教育コンテスト-ISECON2009 インタラクション審査 ・ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラム「高度IT資格制度に関する取り組みの現状: 日本と世界」 ・ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラム「要求工学の実践的な取り組みと要求工学知識体系 REBOK」*連携: 情報サービス産業協会

デモ展示イベント: 以下のイベントを企画開催予定です。

9 日 (火) 10 日 (水)	「今ドキッの IT」@御殿下記念館 2010 [会場: 東京大学御殿下記念館ジムナジウム]
9 日 (火) ～ 11 日 (木)	情報処理学会創立 50 周年を迎えるにあたり、定例の全国大会の来場者に加え、より広い対象の皆様にも、情報処理の活動・将来像を PR する場として、また「今ドキッの IT」を参加者の皆様へ実感、体感して頂く場として大規模展示を開催します。 大会スポンサー展示と大会スポンサーセッション 大会スポンサー展示: 本大会の開催にご賛同を頂いた各スポンサー企業による展示 [会場: 工学部新 2 号館 2F フォーラム] 大会スポンサーセッション: 各スポンサー企業による技術紹介等のセッション [会場: 工学部新 2 号館 2F 223 号講義室]

懇親会: 以下のとおり開催予定です。

10 日 (水)	情報処理学会創立 50 周年記念 (第 72 回) 全国大会 懇親会 (予定) 日時: 2010 年 3 月 10 日 (水) 18:00～20:00 会場: 東京大学 本郷キャンパス 山上会館 B1F 食堂 言語処理学会 第 16 回年次大会懇親会 (予定) 日時: 2010 年 3 月 10 日 (水) 18:30～21:00 会場: 東京大学 本郷キャンパス 医学部研究棟 13F Capo PELLICANO 本郷店
----------	---

プレ・ポストイベント企画: 以下のとおり開催予定です。

6 日 (土)	・情報学シンポジウム [会場: 日本学術会議 (乃木坂)]
8 日 (月)	・情報大航海 ・言語処理学会チュートリアル「自然言語処理と関連領域」／「自然言語処理学基礎論」
12 日 (金)	・情報爆発

■聴講参加費・講演論文集・懇親会参加費 (税込)

申込種別	予約価格 2/26迄	定価
大会共通聴講参加費	無料	無料
大会共通講演論文集CD-ROM	7,000円	7,000円
情報処理学会 記念大会	講演論文集分冊	7,000円
	講演論文集セット*CD1枚付	35,000円
	懇親会参加費 一般	2,000円
	懇親会参加費 学生	1,000円
言語処理学会 年次大会	講演論文集	4,000円
	チュートリアル資料集	無料
	言語処理講演論文集CD-ROM	1,000円
	懇親会参加費 一般	5,000円
	懇親会参加費 学生	4,000円

■問合先

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
 社団法人情報処理学会 事業部門
 電話 (03) 3518-8373, FAX (03) 3518-8375
 e-mail: jigyo@ipsj.or.jp

■留意事項

※大会共通聴講参加申込を頂ければ本大会ならびに言語処理学会
 第16回年次大会、ソフトウェアジャパン2010、プレ・ポストイベント、
 全て無料で参加できます。

※大会共通講演論文集CD-ROMには情報処理学会記念全国大会と
 言語処理学会 第16回年次大会 のコンテンツが収録されています。

※講演論文集、CD-ROM共に事前発送は致しておりません。
 受取りは当日会場受取りか大会終了後の郵送となります。

ソフトウェアジャパン 2010

『サステナブル社会を実現するIT』開催のご案内

<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/forum/software-j2010/>

※併催：情報処理学会創立 50 周年記念(第 72 回)全国大会

開催日時：平成 22 年 3 月 11 日(木) 9:30-17:15 (全体セッション)

*IT フォーラムセッションは 3 月 9 日(火)・10 日(水)・11 日(木)

開催会場：東京大学 本郷キャンパス 安田講堂 (東京都文京区本郷 7-3-1)

*IT フォーラムセッションは工学部新 2 号館 1F 212 講義室 (12B)、工学部新 2 号館 1F 211 講義室 (11C)

協賛：社団法人 情報サービス産業協会、社団法人 日本情報システム・ユーザ協会、社団法人 電子技術産業協会、

XML コンソーシアム、社団法人 電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会、プロジェクトマネジメント学会

後援：文部科学省、総務省、経済産業省、独立行政法人 情報処理推進機構

■参加費：無料 [*併催の情報処理学会創立 50 周年記念(第 72 回)全国大会も無料で聴講できます。]

■参加申込：標記のソフトウェアジャパン 2010 Web サイトから事前申込をお願いします。

■参加申込〆切：平成 22 年 2 月 26 日(金) *定員 1,000 名になり次第〆切

■全体セッション プログラム (3 月 11 日(木) 9:30~17:15) [会場：安田講堂]

9:35-12:00 第1セッション:キーノート セッション	
9:35-10:10	招待講演(1):「ポスト京都時代」をどう生き抜くのか 末吉 竹二郎(国連環境計画・金融イニシアティブ 特別顧問)
10:10-10:45	招待講演(2): Smarter Planet -- IT が拓く持続可能な社会 久世 和資(日本アイ・ビー・エム(株)執行役員 開発製造担当)
10:45-10:50	休憩
10:50-11:25	招待講演(3): i-MiEV で開く低炭素社会 -- 持続可能な社会を目指して 早船 一弥(三菱自動車工業(株)商品戦略本部 副本部長)
11:25-12:00	招待講演(4): 低炭素社会の実現に向けて加速するグリーンIT 関口 智嗣((独)産業技術総合研究所 情報技術研究部門 研究部門長)
13:00-14:15 全国大会 招待講演:「課題先進国」から「課題解決先進国」へ 小宮山 宏((株)三菱総合研究所 理事長)	
14:30-16:00 第2セッション:パネルセッション「サステナブル社会を実現するIT」	
司 会:丸山宏(キヤノン(株)デジタルプラットフォーム開発本部 副本部長) パネリスト:キーノートセッション講演者 徳田 英幸(慶應義塾大学 環境情報学部教授兼政策・メディア研究科委員長)	
16:10-17:15 第3セッション:ザ・ジャパンソフトウェアセッション「次世代スマートフォンで世界を目指す」	
16:10-16:15	ソフトウェアジャパンアワード 表彰式
16:15-16:30	招待講演(1):『LightBike』のヒットに至るまでと今後の展開～全米 No.1 iPhone アプリになった経緯とその要因～ 柳澤 康弘((株)パンカク 代表取締役社長)
16:30-16:45	招待講演(2):個人で制作し世界に配信する 深津 貴之((株)Art & Mobile 代表取締役)
16:45-17:10	鼎談: 日本発のソフトで世界を目指す 林 信行(フリーランス)×柳澤 康弘((株)パンカク)×深津 貴之((株)Art & Mobile)

■IT フォーラムセッション *それぞれのフォーラムの開催日時、詳細はWebページをご覧ください

ITダイバーシティフォーラム “CHANGE! Yes, we can! Past, Present, Future of Women in Information Technology” (仮題) [会場 理学部1号館 2F 小柴ホール]	
【セッション概要】情報処理学会創立50周年にあたり、日本の情報処理分野における女性研究者、技術者が世界と比べ、いまだ大変少なく、また、大学においても、企業においても指導的立場にある女性はさらに少ないという現状を鑑み、解決すべき問題点、その解決方法、ひいては、女性にとって、学ぶ上でも就職する上でもIT分野を魅力的にするにはどうしたらよいか、キャリアパスを築くためのヒント、継続的な励まし(メンター制度)など、これからの50年の情報処理のあるべき姿を検討したい。	
サービスサイエンスフォーラム × JUAS (社)日本情報システム・ユーザ協会 「サービスサイエンスがITサービスの顧客満足度を向上する」 [会場 1 工学部新 2 号館 1F 212 講義室(12B)]	
【セッション概要】社会での IT の重要性は増す一方なのに、IT 産業は順調に発展しているとはいえない。IT 産業はこれまで製造業として努力してきたが、最近はサービス業的な性格が強まっている。また、IT 産業のお客様の大半がサービス業になってきており、IT 従事者はサービスの専門家にならなければ、価値あるソリューションを提供できなくなっている。本セッションでは、サービスサイエンスによりサービスの本質に迫り、サービスサイエンスが IT 産業に寄与する可能性を探ってみる。また、日本情報システム・ユーザ協会(JUAS)のサービスサイエンス研究プロジェクトで検討してきた決定版の「サービスサイエンスによる IT サービスの顧客満足度調査シート」の検討経緯と検討結果を紹介する。	

PM プロジェクトマネジメント学会 「サステナブルな組織のためのプロジェクトマネジメントーITプロジェクトへの高度化するニーズに応えるためにー」 【会場1 工学部新2号館 1F 212 講義室(12B)】	
【セッション概要】 ITプロジェクトへの要求は年々厳しくなっている。背景には、ITの発展によるサイクルタイムの短縮だけでなく、グローバルゼーションと最近の企業の生き残り戦略が求める厳しいコスト低減ニーズがあるのは明らかだろう。本フォーラムでは、高度化するITプロジェクトへの要求に対しモダンPMがどう応え、プロジェクトをどのように成功へ導くべきか、また、ITプロジェクトの機会に対し、実務上どのように評価すべきかを見る。折柄、プロジェクトマネジメントの国際標準ISO21500の策定がPC236で進行中でありそれがIT業界へ与える影響についても検討する。	
XMLコンソーシアム 「気象庁防災情報XMLを使った実証実験～災害から住民一人ひとりの命を守るために～」 【会場2 工学部新2号館 1F 211 講義室(11C)】	
【セッション概要】 昨今、台風、集中豪雨などによる痛ましい被害は増加の一途を辿っており、迅速かつ的確な防災情報の提供が以前に増して切望される。気象庁は、自然災害の軽減、国民生活の向上、交通安全の確保、産業の発展などに寄与するため、警報、注意報などの各種防災情報の改善・高度化を行っている。この防災情報の更なる有効活用を促進し、かつ利用者の様々なニーズへの対応やシステム効率などの観点から、防災情報の形式として、汎用性が高く、広く一般に普及しているXMLを採用し、XMLコンソーシアムの支援のもと、2009年5月に『気象庁防災情報XMLフォーマット』を発表、2010年度からの本番運用の開始を予定している。このセッションでは、なぜ気象庁が防災情報をXML化するに至ったか、その背景や理由について紹介するとともに、XMLコンソーシアムが『災害から住民一人ひとりの命を守るために』をテーマに、気象庁防災情報XMLフォーマットを使って実施した防災情報提供の実証実験について報告する。	
ユーザスタディフォーラム 「ビジネス・エスノグラフィの普及～イノベーション人材の育成に向けて～」 【会場1 工学部新2号館 1F 212 講義室(12B)】	
【セッション概要】 創造的な仮説構築手法である「ビジネス・エスノグラフィ」は、製品サービス開発やビジネスデザインなどの企業活動において、イノベーションを創造する極めて有望なアプローチとして、認知が高まりつつある。人間や、それらを取り巻く様々な状況についての洞察や理解を得るための本手法を活用するためには、こうした手法を習得・運用しながらローカライズし、企業活動に定着させるための人材育成や教育が必要不可欠である。そこで、本セッションでは、本手法を企業活動に応用するための企業内教育のあり方や、分野・領域の枠を越えて、横断的・統合的な視野を持ち、イノベーションを創出する人材の育成やその要件について、先進的な取組みを行っている企業や大学の活動を紹介し、議論する機会とする。さらに、各報告者からの発表を題材とし、パネルディスカッションにおいて会場の参加者とインタラクティブに対話を行いながら、ビジネス・エスノグラフィ教育のあり方や人材育成についての議論を深めたい。	
IPA/SEC（独）情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 「ソフトウェア開発のパラダイム・チェンジ in マインド ～IPA/SECにおける新しい取組み～」 【会場2 工学部新2号館 1F 211 講義室(11C)】	
【セッション概要】 信頼性向上や環境変化への迅速な対応等、情報システムに対する多様な要求が高まっている中で、旧来のソフトウェア開発における考え方や手法に固執しては、このような要求に十分応えることはできない。新しい考え方や手法の導入、あるいは既存手法でもかつては対象外とされていた領域への適用等、変革への挑戦を考えるべき時にある。そこで本セッションでは、現在IPA/SECが進めている3つの新しい取組みについて、その内容と状況を紹介する。1番目は、品質メトリクスを用いた定量的品質コントロールメカニズムを導入し、目標値と実績値との比較に基づいたプロジェクト管理の実施等により、特に重要インフラ情報システムに求められる信頼性水準を達成しようとするものである。2番目は、適用領域や開発現場への適用可能性を考慮しつつ、エンタプライズ系の情報システムにも形式手法を適用し、その高信頼化を実現しようとするものである。3番目は、導入が広まりつつあるアジャイル型等の非ウォーターフォール型開発形態について、システムの信頼性や品質を高めるための課題等を取りまとめるものである。	
高度IT人材育成フォーラム 「高度IT資格制度に関する取り組みの現状:日本と世界」 【会場1 工学部新2号館 1F 212 講義室(12B)】	
【セッション概要】 情報処理学会では2008年度から高度IT資格制度に関する検討を開始した。2009年7月には政府のIT戦略本部からi-Japan戦略2015が発表され、その中にも「高度デジタル人材の認定・認証」が盛り込まれている。IPAはITSSレベル4および5に対応する資格制度の検討を進めており、その成果を「社内プロフェッショナル認定の手引き」として発表している。世界レベルでもIFIPによるIP3やCEPIC(Council of European Professional Informatics Societies)によるEUCIPなどの取り組みが行われている。本セッションではこれらの取り組みを概観し、参加者が高度IT資格制度の意義について考えるきっかけとしたい。	
JISA（社）情報サービス産業協会 「要求工学の実践的な取り組みと要求工学知識体系 REBOK」 【会場2 工学部新2号館 1F 211 講義室(11C)】	
【セッション概要】 ソフトウェア開発の実務における最大の課題は要求分析にあることから、(社)情報サービス産業協会では、平成18年度より要求工学WGを設置し、3年間にわたって要求工学の実践的な取り組みを行った。初年度はWG委員が現場で実践したプラクティスを通じ、要求開発プロセスにおける「組織形態パターン」を取りまとめた。2年度はさらに現場でのプラクティスを収集し、要求獲得、要求分析、要求仕様記述、要求検査、要求管理別にベストプラクティスを整理した。最終年度では、要求工学を活用するための知識とその人材育成の指針となる要求工学知識体系(REBOK: Requirements Engineering Body Of Knowledge)[リーボックと呼ぶ]の検討、ならびに、ユーザとベンダが協調した要求開発の実践を目指して、事例の収集、整理を行った。このセッションでは、JISAでの3年間の取り組み成果について紹介するとともに、現場における要求工学の課題について討議する。	
ユニバーサルデザイン協創フォーラム 「目が見えなくても中身がわかる! バーコードによる商品案内実験」 【展示会場 工学部新2号館 2F フォーラム】	
【展示概要】 相方が仕事のあいだ留守番しているとき、あるいはひとり暮らしの方、下宿している学生さん! まとめ買いしてきた商品や、棚の奥にしまっていた缶詰め、いままさに空けようとしているペットボトルの中身、インスタントラーメンの味が、空ける前になんだかかわかったら、生活が楽しくなると思いませんか。この商品案内実験は、視覚障害者を対象とした社会貢献事業として、経済産業省所管の財団法人である流通システム開発センターの協力を得て3年間の実施を予定しています。情報処理学会ユニバーサルデザイン協創フォーラムでは、この期間、視覚障害者(利用者)と、視覚障害者のために便利なソフトを作ってみようとする学会員ならびにその直接の紹介を受けた方(開発者)に対し、最新のデータに無償でアクセスできる環境を提供します。バーコードを読み取って、視覚に障害のある人に音声で知らせるプロジェクト、と聞いたら、「どこにバーコードが印刷されているか分からないだろうから、ひとりで読むのは無理じゃないの?」と思いますよね。会場にデモソフトを用意していますので、視覚に障害のある方もない方もぜひいらして体験してみてください。また、腕に自信のある方、ぜひフォーラムに参加して、ソフト開発にご協力ください!!	



【特集：環境貢献・社会貢献に向き合うネットワークサービス技術】

■特集「環境貢献・社会貢献に向き合うネットワークサービス技術」の編集にあたって 市村 哲

■治療優先度を付加した自動トリアージシステムの提案

栖関邦明 他

■災害時孤立集落での利用を想定した地域内情報共有システム

塚田晃司 他

■遠隔会議支援ロボットシステムの注意喚起能力評価

鈴木雄介 他

■ All for one 型多言語会議支援システムの構築と評価 吉野 孝

■傘連判状を採り入れたコミュニケーションプロトコル

西田健志 他

■ロボット搭載カメラの移動がテレプレゼンスに与える影響

村上友樹 他

■記憶の想起と記録のためのライフログ・ブログ連携型支援手法の提案 小柴 等 他

【特集：安全・安心な社会を支える高度交通システムとモバイル通信】

■特集「安全・安心な社会を支える高度交通システムとモバイル通信」の編集にあたって 堀内浩規

■車間通信による安全運転支援システムのアプリケーションレベル QoS 評価 伊藤健二 他

■ Safety Driving Support using CDMA Inter-Vehicle Communications Oyunchimeg Shagdar 他

■通信エリア内でのスループット向上を目的とした車間通信プロトコルの設計と評価 石田剛朗 他

■確率的手法を用いた車線変更軌跡のモデル化 西脇由博 他

■カーナビゲーションシステムのための走行履歴と運転状況を用いた車両目的地予測手法 田中宏平 他

■アドホックネットワークにおける Top-k 検索のためのメッセージ処理手法 萩原 亮 他

■IP データ通信用フェムトセルを用いた移動体ネットワーク接続におけるプロキシ型 MOBIKE ハンドオフ方式とその高速化手法に関する研究 千葉恒彦 他

■Bluetooth と RFID を併用した携帯電話端末による位置情報付き貼り紙・伝言板機能の開発[†] 滝澤 修 他

■OS 切替方式を用いたオープン型移動機における軽量難読化手法 中川智尋 他

【一般論文】

■ユーザ標的型 Web サイト改ざんに対する検索エンジンを用いた検知手法の提案 田村佑輔 他

■家庭用ゲーム機の入力デバイスを用いた階層型ニューラルネットワークによるジェスチャー認識[†] 飯村伊智郎 他

■Webjig：ユーザ行動とユーザ画面の関連付けによる動的 Web サイト利用者の行動可視化システムの開発および評価* 木浦幹雄 他

*：推薦論文 Recommended Paper

†：テクニカルノート Technical Note

書評・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では、会誌「情報処理」に掲載する書評、および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています。

1. 募集対象 次の2種類の記事について、原稿を募集します。

- 書 評：過去2年間に出版された、本学会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。
- 会議レポート：情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本学会員に広く知らせる価値のある話題。

2. 応募資格

原則として本学会員に限ります。

3. 応募の手続き

- 表 題：書評の場合は、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBN を書く。
会議レポートは、見出しを書く。書評、会議レポートの別を左肩に書く。
- 評者名（会議レポートの場合は筆者名）・所属・評者連絡先（住所、E-mail、Fax など）の記載を忘れずに。
- 本 文：書評、会議レポートとも2,100字前後で書く。
- （必要であれば）参考文献、付録、図、表をつける。
詳しくは「原稿執筆案内」(<http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/shippitsu/kaishi.html>)を参照してください。

4. 原稿の取扱い

投稿された原稿は会誌編集委員会で審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

5. 照会／応募先 (社) 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp

行政刷新会議のスーパーコンピュータ事業仕分けについて当会は2009年11月26日に文部科学省に意見表明を行いました(<http://www.ipsj.or.jp/03somu/teigen/shiwake200911.html>). それより前の10月15日に国立情報学研究所の三浦謙一氏(富士通フェロー)がベクトル型スーパーコンピュータFACOM VP-100/200のハードウェア・ソフトウェア開発におけるリーダーシップに対して、高性能計算分野に対する革新的な貢献を行った研究者を称える国際的に著名なIEEE-CSのシーモア・クレイ賞を受賞したばかりです。世界が日本の技術を認める一方日本ではスーパーコンピュータではもう1位にできないから作らなくて宜しいと宣う著しい対比は、30年という時の流れに日本がどのように変遷したかを示しているようで一抹の寂しさを覚えます。三浦氏の活躍は主にアプリケーションサイドでしたが、VP-100/200のハードウェア設計者は内田啓一郎氏(現在神奈川大学)なので、内田氏がシーモア・クレイ賞を受賞してもおかしくないとも思いますが、二人とは大学と富士通を通しての友人である私としては複雑な気持ちです。

スーパーコンピュータは庶民にはあまり馴染みがないものですが、毎日目にする天気予報ではスーパーコンピュータを極限まで利用しています。スーパーコンピュータを採用してから数値予報の精度は格段に向上したと言われています。現在はVP-100/200当時よりも遥かに高速のスーパーコンピュータを使用しているので観測点も多く取られ圧倒的に精確な気象予報となっているはずですが、また別の時間で採取した観測データを同時刻に整合させるキャリブレーションも多大な演算時間を必

要とし、そのためにもスーパーコンピュータは欠かせません。ところが天気予報に基づいて行動する庶民の実感としては、週末の天気に限っては1日前でもしばしば外れるので趣味の登山計画も台無しとなり、そういう時には予報官は観天望気の時代の中央気象台長藤原咲平氏の爪の垢でも煎じて飲んで欲しいものだったと思います。雨予報が外れて晴天になると怒りは倍加しNHKの気象予報士に、「これを使って予報したら」と言って庭下駄を送りつけたくなります。

ということで、気象庁の天気予報は参考程度とし、代わりに自然との共生を企業文化としサポータと一緒に天気予報を創りゲリラ豪雨も予測可能というウェザーニューズ社の天気予報にしようかなと思うこの頃です(この文章を書いている時、夜の雨は降り続いていたのですが気象庁の予報は曇でウェザーニューズ社のピンポイント予報は雨でした。現実には雨が降っていることをサポータが報告し、その情報を基にした局地予報はスーパーコンピュータを凌駕することもあるのではと考えさせられます。さらに考えてみるとこういった現実と予測のハイブリッドシステムが意思決定分野において大きく伸びるのではと思いますが如何でしょうか)。

アバターに袴着ける年賀かな



(湖東俊彦/事務局長)

■ 各種問合せ先 ■

(社) 情報処理学会 (本部) ※ 支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください。
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F Fax(03)3518-8375 <http://www.ipsj.or.jp/>

担 当	E-mail	Tel (ダイヤルイン)	取り扱い内容
■ 会員サービス部門			
会 員	mem@ipsj.or.jp	03-3518-8370	入会、会費、変更連絡、退会、在会証明、会員証、会費等口座振替、海外からの送金
■ 会誌編集部門			
会誌編集	editj@ipsj.or.jp	03-3518-8371	会誌「情報処理」の掲載内容、広告掲載、転載許可、出版、著作権
■ 研究部門			
論文誌	editt@ipsj.or.jp	03-3518-8372	論文誌（ジャーナル）の編集・査読
調査研究／教育	sig@ipsj.or.jp		研究会登録、研究発表会、シンポジウム、研究グループ、論文誌（トランザクション）
■ 事業部門			
事 業／国 際	jigyo@ipsj.or.jp	03-3518-8373	全国大会、FIT、連続 세미나、プログラミング・シンポジウム、国際会議、IFIP 委員会
■ 管理部門			
総 務	soumu@ipsj.or.jp	03-3518-8374	理事会、支部、役員選挙、名誉会員
経 理	keiri@ipsj.or.jp		出納、送金連絡
システム企画	sys@ipsj.or.jp		システム企画、電子化委員会、電子図書館、IPSJ メールニュース
図 書	tosho@ipsj.or.jp		出版物購入
■ 情報規格調査会			
規格部	standards@itscj.ipsj.or.jp		標準化フォーラム 〒 105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 Tel (03)3431-2808 Fax (03)3431-6493 http://www.itscj.ipsj.or.jp/

～*～*～ 会員サービスのご案内 ～*～*～

会員の皆様に特典としてご利用いただける各種サービスをご案内いたします（本会 Web ページ：<http://www.ipsj.or.jp/06mem/kaiin/service-menu.html> 参照）。会員特典等にご意見ご要望等がございましたら事務局会員サービス部門（E-mail:mem@ipsj.or.jp）までお寄せください。

ホテル（10～53%割引）

サンルートホテルチェーン、ホテル法華クラブ、JR ホテルグループ、東急ホテルズ、プリンスホテル、
阪急阪神第一ホテルグループ、JR 東日本ホテルチェーン、グランビスタホテル&リゾート、都ホテルズ & リゾート、
ホテル京急グループ、ダイワロイヤルホテルズ、FUJIYAMA 倶楽部、ウィクリーマンション東京

レンタカー（10～51%割引）

ニッポンレンタカー、日産レンタカー、マツダレンタカー

パック旅行（3～7%割引）

日本旅行、近畿日本ツーリスト、トップツアー、京王観光、ジャルパックサービス、エンターティメントエクスプレス

その他（書籍・コンピュータソフト割引販売、レンタルオフィス）

UC 丸善アカデミックカード、パーシティウェブ（教育機関所属の方はアカデミック価格で）、デスカット

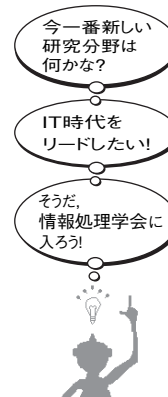
ITの最新情報，研
究発表の場の提供
を通じて，あなた
のお役に立ちます

詳しくは <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

会員募集中!!



申込／照会先 社団法人 情報処理学会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
Tel(03)3518-8370(会員サービス部門) E-mail:mem@ipsj.or.jp



平成 22 年度会誌モニタ募集のお知らせ

会誌編集委員会

会誌「情報処理」をよりよくするために編集委員一同努力を続けておりますが、会誌についての会員の方々の評価や希望をうかがい、今後の改善に役立てるために、モニタ制度を設けております。

関心のある方はぜひふるってご応募ください。

応募の資格 本会員で、モニタの役割を積極的に果たしていただける方。

モニタの役割 会誌毎号の本誌巻末の所定用紙または学会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) から、毎月アンケートに回答する。

- 記事に対する評価
- 記事に対する感想・意見
- 記事テーマの提案
- そのほか全般的な意見・提案など

注) 会誌の記事をすべて読むといったことは必ずしも必要ではありません。自分の立場や問題意識、得意とする分野などを基準とした「独断と偏見による」自由な意見を期待します。

期 間 原則として 1 年間とします。

対 象 号 会誌 51 巻 4 号～52 巻 3 号

謝 礼 貴重なご意見をいただいた方には薄謝または記念品を贈呈します。

募集人員 特に定めませんが、応募者数によっては当委員会で調整させていただくことがあります。

応募締切 平成 22 年 2 月 26 日 (金) 必着 *申込書を Fax するか、または E-mail でお申し込みください。

申込／照会先 情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係)

平成 22 年度会誌モニタ申込書

宛先：情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係)

E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

氏 名

会員番号 ()

住 所 〒

所 属

E-mail:

Tel () -

Fax () -

年 齢 (歳)

業種：(a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (e) 学生 (f) その他

職種：(a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務 (f) 会社経営・役員・管理職
(g) 教官 (大学・大学院) (h) 教職員 (i) 学生 (j) その他

ご意見をお寄せください！

【2月10日頃までにお出しください】

宛 先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからも送付できます)

<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq5101.html> Fax(03)3518-8375 E-mail:editj@ipsj.or.jp

(E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください)

※ ご意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。

<http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html>

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. () -
3. E-mail:
4. 業種: (a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (大学・高専など)
(e) 学生 (f) その他 4-
5. 職種: (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教官/教員 (大学・大学院) (h) 教職員 (小・中・高校・高専など)
(i) 学生 (j) その他 5-
6. 年齢: (a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6-
7. 性別: (a) 男性 (b) 女性 7-
8. あなたはモニタですか?: (a) はい (b) いいえ 8-
9. あなたのご意見は「会員の広場」(会誌および Web) に掲載される場合があります。その場合:
(a) 実名可 (氏名のみ掲載) (b) 匿名希望 (c) 掲載を希望しない 9-
10. 今月号 (2010年1月号) の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
[a …大変参考になった b …よい c …普通、どちらとも言えない d …悪い e …読んでいない]

特集: 社会に浸透する新たなコンピュータ/ネットワークの世界

1. バブルブラウザ: 子供向け Web ブラウザの取り組み 10-1-
2. 動的な空間表現を可能とする Web 技術の開発 10-2-
3. ブログからの地域イベント情報抽出 10-3-
4. 大量の行動履歴情報を扱うプラットフォーム技術 10-4-
5. 日常的使用を目指した音声入力インタフェース 10-5-
6. 英語字幕による会議支援 10-6-
7. 常時ユーザ認証 10-7-
8. ダンスパフォーマンスのための動作認識手法 10-8-
9. メディアとしての香り 10-9-
10. 携帯端末向け測位技術の動向サーベイと新技術の紹介 10-10-
11. 無線端末の移動通信履歴を用いた自動地図生成 10-11-
12. 無線ネットワーク技術を用いた災害時救命救急支援 10-12-
13. VoIP トラフィックの監視と監視装置の実装 10-13-
14. 符号理論と通信を融合した Network Coding を用いたアドホックネットワークの実現 10-14-
15. インターネット放送の魅力と可能性 10-15-
16. ネットワークシミュレータの車車間通信システムモデルの機能と実行性能の比較 10-16-
- 国際情報オリンピック 2009 ブルガリア大会参加報告 10-17-
- 卓越技術データベースの構築と発信 10-18-
- "I" 見聞録: Pervasive 2009 10-19-
- 欧州駐在員便り: 次世代送電網欧州事情 10-20-

11. 特に興味を持ってお読みになった記事とその感想をお書きください。

12. 著者への質問、今後取り上げて欲しいテーマなどありましたらお書きください。

最近多くの人が twitter とセカイカメラを使っています。特に若い人は日頃のコミュニケーションツールとして深く使いこなしている感じがします。近くにいる若者たちが何か問題のあるような発言や書き込みをしないかと、はらはらしながら見守っているのですが、そのあたりはうまく考えながら使いこなしているようです。

ここ 10 年、コンピュータ／ネットワークの世界は絶えず進化してきました。子供たちからお年寄りまで、幅広い世代の人が新しい技術のもたらす便利で豊かなくらしを享受するようになってきていますが、その中心は常に彼らのような若者ではないかと思ひます。おそらくこれからまた新しいツールが次々と現れ、彼らは思った以上にうまく使いこなしていくのではない

かと思ひます。

今回の特集では、情報処理学会のシンポジウムの中でも最大級の規模を誇る DICOMO2009 より、若手を中心とする面白そうなアプローチを抜粋させていただきました。できるだけ分かりやすく、それとともに面白さが伝わるように書いていただければ、執筆者の皆さんにお願いしました。その結果、従来の会誌にはないフレッシュな感じに満ち溢れた特集になったのではないかと思ひます。これからもまだまだ変化するこの分野を、多くの方々にフレッシュな気持ちでともに考えていただければと思ひます。

(塚本昌彦、土井美和子／本特集エディタ)



次号 (2 月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」e-サイエンスを実現するグリッド技術

サイエンスグリッドの動向／グリッドを実現するグリッドミドルウェア基盤／e-サイエンスコミュニティを形成するミドルウェア技術／大学間連携グリッド基盤の運用／グリッドを用いた e-サイエンス研究事例

解説

コンピュータサイエンスによる物流トラックの温室効果ガス排出削減…………… 佐藤一郎

トピックス

50 周年記念全国大会 (仮)…………… 武田浩一 他

委員会から

IFIP ー情報処理国際連合ー近況報告…………… 齊藤忠夫 他

連載 情報処理技術遺産

コラム “I” 見聞録／欧州駐在員便り

複写される方へ

本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、同協会より許諾を受けて複写してください。ただし、(社)日本複写権センター(同協会より権利を再委託)と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません(社外頒布用の複写は許諾が必要です)。

権利委託先: 一般社団法人著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル

E-mail: info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

なお、著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、著作権協会では扱っていませんので、本会へご連絡ください。

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

Notice for Photocopying

If you wish to photocopy any work of this publication, you have to get permission from the following organization to which licensing of copyright clearance is delegated by the copyright owner.

<All users except those in USA>

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

E-mail: info@jaacc.jp

Phone: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

<Users in USA>

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

広告のお申込み

■広告料金表

掲載場所	4 色	2 色	1 色
表 2	346,500 円 (税抜 330,000 円)	—	—
表 3	288,750 円 (税抜 275,000 円)	—	—
表 4	404,250 円 (税抜 385,000 円)	—	—
表 2 対向	315,000 円 (税抜 300,000 円)	—	—
表 3 対向	278,250 円 (税抜 265,000 円)	199,500 円 (税抜 190,000 円)	162,750 円 (税抜 155,000 円)
前付 1 頁	262,500 円 (税抜 250,000 円)	173,250 円 (税抜 165,000 円)	141,750 円 (税抜 135,000 円)
前付 1/2 頁	—	—	84,000 円 (税抜 80,000 円)
前付最終	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
目次前	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
差込 (A 判 70.5kg 未満 1 枚)	288,750 円 (税抜 275,000 円)		
差込 (A 判 70.5kg ~ 86.5kg 1 枚)	367,500 円 (税抜 350,000 円)		
同封 (A 判 1 枚)	367,500 円 (税抜 350,000 円)		

■「情報処理」

発 行 社団法人 情報処理学会
 発行部数 25,000 部
 体 裁 A4 判
 発 行 日 毎当月 15 日
 申込締切 前月 10 日
 原稿締切 前月 20 日
 広告原稿 完全版下データ
 原稿寸法 1 頁 天地 260mm× 左右 180mm
 1/2 頁 天地 125mm× 左右 180mm
 雑誌寸法 天地 297mm× 左右 210mm

■問合せ・お申込み先

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27
 アドコム・メディア (株) (Tel/Fax/E-mail は下に記載)

*原稿制作が必要な場合には別途実費申し受けます。
 *同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック☑を入れ、送付希望先をご記入の上、Fax にて (または E-mail にて必要事項を記入の上) アドコム・メディア (株) 宛にご請求ください。

■「情報処理」 51 巻 1 号 掲載広告 (五十音順)

☐ インタフェース…………… 表 2 ☐ 京都大学 ICT イノベーション事務局 …… 同封
☐ オーム社…………… 表 2 対向 ☐ 日立製作所…………… 表 4

☐ すべての会社を希望

■資料送付先

フリガナ お 名 前			
勤 務 先	所属部署		
所 在 地	(〒 -)		
TEL ()	-	FAX ()	-
ご専門の分野			



お問合せ・お申込み・資料請求は
 広告総代理店 **アドコム・メディア (株)**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp



賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。

Web サイト (<http://www.ipsj.or.jp>) 「会員サービス」のページからも各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 (社) 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel. (03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ～ 50 口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所

FUJITSU

富士通 (株)

NEC

日本電気 (株)

TOSHIBA

(株) 東芝

IBM

日本アイ・ビー・エム (株)

MITSUBISHI
Changes for the Better

三菱電機 (株)

●●● 賛助会員 (10 ～ 19 口)



株式会社 NTT データ
(株) NTT データ

Google

グーグル (株)

NTT docomo

(株) NTT ドコモ

NTT

日本電信電話 (株)

Microsoft

マイクロソフト (株)

●●● 賛助会員 (3 ～ 9 口)



NTT コムウェア
(株) NTT コムウェア

OKI

沖電気工業 (株)



Fusic Co., Ltd.

(株) Fusic

ilovex

(株) アイロベックス

INFOJAM

(株) インフォジャム

uejima

(株) うえじま企画

SONY

ソニー (株)

コトバキウチュウ

(株) ニューズウォッチ

Panasonic
ideas for life

パナソニック (株)

楽天

楽天 (株)

●●● 賛助会員 (2 口)



(株) KDDI 研究所



NTT アドバンステクノロジー
(株)

Canon

キヤノン (株)



(株) 言語工学研究所

SPC

三協印刷 (株)

SANBI

三美印刷 (株)



鉄道情報システム (株)



東北電力

東北電力 (株)



(株) ナレッジクリエーション
テクノロジー



日本放送協会放送技術研究所

インテル (株) / キーウェアソリューションズ (株)

【A～Z】

(株) CIJ
CRIMSON INTERACTIVE
PVT. LTD.
(株) CSK システムズ
(株) CSP フロンティア研究所
(株) Fusic
(株) HBA
HOYA (株)
Intellectual Ventures Japan 合同会社
JRC エンジニアリング(株)
(株) KDDI 研究所
MHI エアロスペースシステムズ(株)
NEC システムテクノロジー (株)
(株) NEC 情報システムズ
NEC ソフト(株)
NEC ソフトウェア東北(株)
NEC フィールディング(株)
NTT アドバンステクノロジー(株)
NTT コムウェア(株)
NTT ソフトウェア(株)
(株) NTT データ
(株) NTT データ・アイ
(株) NTT データ CCS
(株) NTT データ関西
(株) NTT データ九州
(株) NTT データ中国
(株) NTT データ東海
(株) NTT データ東北
(株) NTT ドコモ
NTT 横須賀研究開発センタ
(株) PFU
SEO (株)
TIS (株)

【あ行】

アートシステム(株)
アイアンドエルソフトウェア(株)
(株) アイヴィス
(株) アイ・エス・ビー
アイシン精機(株)
(株) アイズファクトリー
(株) アドバンスト・メディア
(株) アルファシステムズ
池上通信機(株)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)
岩崎通信機(株)
(株) インテック
(株) インテックシステム研究所
インテル(株)
インフォサイエンス(株)
(株) インフォジャム
(株) ヴァル研究所
(株) うえじま企画
(株) エーアイ
(株) エクサ
(株) エス・エフ・シー
(株) エスケーエレクトロニクス
(株) エヌジェーケー
エヌ・ディー・アール(株)

(株) エルザジャパン
オークマ(株)
(株) 大塚商会
(株) オーム社
沖ソフトウェア(株)
沖通信システム(株)
沖電気工業(株)
(株) 小野仁
オムロン(株)

【か行】

(独) 科学技術振興機構
(財) 画像情報教育振興協会
(学) 片柳学園日本工学院専門学校
(学) 片柳学園日本工学院八王子
専門学校
関西電力(株)
関電システムソリューションズ(株)
キーウェアソリューションズ(株)
(財) 機械振興協会
キャノン(株)
キャノン(株) 技術資料センター
キャノン IT ソリューションズ(株)
キャノンソフトウェア(株)
(財) 九州先端科学技術研究所
九州電力(株)
共立出版(株)
(株) 近代科学社
グーグル(株)
グレースノート(株)
(株) 言語工学研究所
原電情報システム(株)
(株) コア 中四国カンパニー
(株) 構造計画研究所
(株) 高知電子計算センター
国土大学情報科学センター
(独) 国立印刷局研究所
国立国会図書館
コニカミノルタテクノロジーセン
ター (株)
(株) コミュニチュア

【さ行】

(株) サイエンスハウス
サクサ(株)
サクシード(株)
三協印刷(株)
三美印刷(株)
サン・マイクロシステムズ(株)
三洋電機(株)
三洋電機(株) デジタルシステム研
究所
(株) シーエーシー
(株) ジーダット
(株) ジェイアールシステム・エンジ
ニアリング
(株) ジェイアール東日本情報シス
テム
ジェイマジック(株)
システム・オートメーション(株)

システム開発(株)
(株) システムラボ
実教出版(株)
シャープ(株)
(株) ジャステック
(株) ジャストシステム
(株) ジャパンテクニカルソフトウェア
(財) 情報科学国際交流財団
(社) 情報サービス産業協会
(独) 情報処理推進機構
(独) 情報通信研究機構
(独) 新エネルギー・産業技術総
合開発機構
(株) 新社会システム総合研究所
新日鉄ソリューションズ(株)
(株) 数理計画
(株) スクウェア
住友電気工業(株)
3Di (株)
(株) セイノー情報サービス
セコム(株)
(株) 全農ビジネスサポート
(株) 創夢
ソニー (株)
ソニーグローバルソリューシ
ョンズ(株)
(株) ソフトウェアコントロール
(財) ソフトウェア情報センターソフ
トウェア特許情報センター
ソラン(株)

【た行】

拓殖大学
中国電力(株)
(株) 中電シーティーアイ
中部電力(株)
中部日本電気ソフトウェア(株)
通研電気工業(株)
ティーディーシーソフトウェアエン
지니어リング(株)
テービーテック(株)
デジタルプロセス(株)
鉄道情報システム(株)
(財) 鉄道総合技術研究所
(株) テブコシステムズ
(社) 電子情報技術産業協会
(株) デンソー
(株) デンソーアイティーラボラトリ
(株) デンソークリエイト
(株) 電通国際情報サービス
(財) 電力中央研究所
東海ソフト(株)
東海旅客鉄道(株)
東京電力(株)
東光(株)
(株) 東芝
東芝システムテクノロジー (株)
東芝情報システム(株)
東芝ソリューション(株)
東芝テック(株)
東芝マイクロエレクトロニクス(株)

東芝メディカルシステムズ(株)
東邦ガス情報システム(株)
東北電力(株)
(株) 東和システム
特許庁
トッパン・フォームズ(株)
(株) トヨタコミュニケーションシス
テム
トヨタ自動車(株)
(株) 豊田中央研究所

【な行】

名古屋学院大学
(株) ナレッジクリエーションテクノ
ロジー
(株) ニコンシステム
ニッセイ情報テクノロジー (株)
日鉄日立システムエンジニアリング
(株)
日本アルゴリズム(株)
日本コムシス(株)
日本事務器(株)
(株) 日本情報システムサービス
日本電気(株)
(株) 日本電気特許技術情報セン
ター
日本アイ・ピー・エム(株)
(社) 日本化学会
日本銀行
日本原子力研究開発機構
日本航空電子工業(株)
日本証券テクノロジー (株)
日本信号(株)
日本電子計算(株)
日本電信電話(株)
(株) 日本トラフィックコンピュー
ターセンター
(財) 日本品質保証機構
日本放送協会 放送技術研究所
日本無線(株)
日本ユニシス(株)
(株) 日本旅行
(株) ニューズウォッチ
(株) ニューメディア総研
(株) 野村総合研究所

【は行】

(株) ハイエレコン
パイオニア(株) 技術開発本部
パイオニア(株) 技術開発本部シス
テム研究センター
萩原電気(株)
(株) 博報堂DYホールディングス
パナソニック(株)
パナソニック(株) AVC ネットワー
クス社
パナソニック コミュニケーションズ
(株)
パナソニック モバイルコミュニ
ケーションズ(株)

パナソニックMCE (株)	(株)フォーカスシステムズ	北陸電力(株)	(株)メイテツコム
パナソニック電工(株)	(株)フジキカイ 名古屋工場	北陸日本電気ソフトウェア(株)	森長電子(株)
(株)ハピネット	富士通(株)	(株)堀場製作所	
(株)ビーコン インフォメーション テクノロジー	(株)富士通アドバンスドエンジン アリング	(株)本田技術研究所	【や行】
(株)ビクセラ	(株)富士通エフサス		ヤフー (株)
日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア(株)	(株)富士通長野システムエンジン アリング	【ま行】	ヤフー (株) Yahoo! JAPAN 研究 所
(株)日立アドバンスデジタル	(株)富士通九州システムズ	(株)マイクロアド	ヤマハ(株)
(株)日立エイチ・ビー・エム	(株)富士通四国システムズ	マイクロソフト(株)	横河電機(株)
(株)日立国際電気	(株)富士通中国システムズ	マツダ(株)	
(株)日立情報システムズ	(株)富士通中部システムズ	三井情報(株)	
(株)日立情報制御ソリューション ズ	(株)富士通東北システムズ	(株)ミックナイン	【ら行】
(株)日立製作所 システム開発研 究所	(株)富士通北陸システムズ	三菱UFJインフォメーションテクノ ロジー (株)	楽天(株)
(株)日立製作所 情報・通信グルー プ	(株)富士通ソーシアルサイエンス ラボラトリ	三菱UFJ証券(株)	リードエグジビションジャパン(株)
(株)日立製作所 中央研究所	富士通テン(株)	三菱スペース・ソフトウェア(株)	(株)リコー
(株)日立製作所 中国支社	フジテック(株)	(株)三菱総合研究所	(株)リンクレア
(株)日立製作所 東北支社	富士電機システムズ(株)	三菱電機(株)	
日立ソフトウェアエンジニアリング(株)	富士フィルム(株)	三菱電機インフォメーションシステ ムズ(株)	
(株)日立中国ソリューションズ	船井電機(株)	三菱電機コントロールソフトウェア (株)	
(株)日立テクニカルコミュニケー ションズ	フューチャーアーキテクト(株)	三菱電機メカトロニクスソフトウェ ア(株)	
(株)日立東日本ソリューションズ	ブラザー工業(株)	三菱プレジジョン(株)	
(株)ファースト	古野電気(株)	武蔵野美術大学	
	プロソフトトレーニングジャパン (株)		

協力協定学会との正会員会費相互割引について

各学協会との協定により、正会員会費が割引になります。ぜひ、ご活用ください。
 本会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/06mem/kaiin/kyoryoku.html>) にも掲載しております。

●協力協定学会名・相互割引率（正会員会費が割引対象）

IEEE	(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)	10%
IEEE-CS	(IEEE Computer Society)	10%
ACM	(Association for Computing Machinery)	20%
CSI	(Computer Society of India)	20%
ASTI	(Association Francaise des Sciences et Technologies de l' Information)	10%

※協力協定学会の会員費割引については、海外関連団体 (<http://www.ipsj.or.jp/03somu/kanrenlink/kanrendantai/kanren/kaigaikanren.html>) をご参照いただき、直接お問い合わせください。

●本会への申請方法

会費割引を希望する正会員は、次のフォームから申請してください。

正会員会費割引申請フォーム (<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-seikaiin-kaihiwaribiki.html>)

初めて申請する方は上記協力協定各学会正会員の会員証コピーを Fax 等で送ってください。割引適用は 1 学会分といたします。

※これから入会を希望する方も同様に申請できます。入会申込書（正会員）(https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-nyukai_sei.html) をご確認ください。

■照会先：会員サービス部門 E-mail:mem@ipsj.or.jp Tel:(03)3518-8370 Fax:(03)3518-8375